

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

みなさんこんにちは 僕らEAST&WEST-BANDです。

活動場所は主に合同レクリエーションなどでビートの効いた音楽を提供しています!?

約25年前に結成された
バンドです。

レクリエーションという場所で『職員と患者さまが一緒になって楽しもう』をテーマにあらゆるジャンルの唄の中から自分たちの好きな曲、やれる曲を選択して演奏しています。

約25年前に看護師2名で結成され、百戦錬磨の末に結成当時のオリジナルメンバーはそのままに、幾人かのメンバー交代がありました。現在は5名の男たち(平均年齢約44歳)で楽しくやっています。

僕が加入した当時は、バンド練習だけの今にも崩れそうな離れ部屋があって、勤務が終わると毎日そこに行って楽器を練習していたのを思い出しますが、何せみんな若かったので曲の選択や進行、そしてMCをどうするか、など毎回激しいやりとりがありました。結局は患者さまに

聞いていただくわけですから『立派な仕事であり、レクリエーションという治療の中の一環であり妥協はできない…』がみんなの熱い想いで今まで続いてきました。



実は緊張しています。

さて、みなさん!バンド演奏している時メンバーはどんな心境かわかりますか?実はうまくいっている曲は気持ちいいのですが、新曲などのときは神経ピリピリです。各パートの様子や楽器、機械の具合…もう大変なんです。客席から見えるのと

は違い中は戦場となっています。本当に自分が何人も欲しいくらい緊張しますよ…またそれがいいんですけどね。



今後のバンドとしての方向ですが、今までと何にも変わりなくやっています。合同レクの運動会、盆踊り、演芸会そして一大イベントの病院祭、また各病棟でのレクリエーション等どこでも演りますよ、一人で演奏するときもあるし大音響でガンガンに汗をかく時もある。スピリットはまだまだギター少年のままですから。そうそう、女性のピアニストも正式加入しました!是非みなさん見にきて下さい。

心の健康セミナー 誌面版

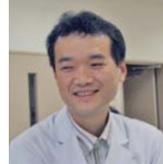
心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

毎号連載!

テーマ 特別支援教育と医療(その2)

前号より引き続き、特別支援教育について高山先生にお話をいただきました。

今号の講師



高山 学 医師

私が駆け出しの児童精神科医だった頃(結局駆け出しで終わってしまいましたが・・・閑話休題)、小学校に入ったばかりの男の子が母親と初診で来院されました。もともと元気な子でしたが、学校の担任から多動だと言われ紹介されたとのことでした。私は本児をすぐさま注意欠陥多動性障害(以下ADHD)と《診断》してみせ、教科書のように解説し中枢神経刺激剤を処方しました。翌週、予約を守って来院された母親はきっぱり「あんなこわい薬は飲ませられません」と言います。どんな副作用が出たのかと構えれば「動かなくなった」「あの子じゃなくなってしまった」。いや、それこそ効果なのですよと、説明したものの内心「このお母さん、わかってないなあ」と思いました。その後、来院されることはありませんでした。

しかし本当にわかっていないのはどちらの側だったのでしょうか。母親は指摘された舞台である学校での解決策を聞いたかたは。そのような説明もないまま薬を処方されただけ。その薬の影響を伝えたくて次回予約を遵守してまで来院した母親の気持ちを自分は受け止めることができたのでしょうか。いま思い出しても冷や汗が出ます。

● 薬物療法のみならず・・・

この度の特別支援教育のガイドラインではADHDの児童に対して《必要に応じて専門医がいる医療機関を紹介し、受診するように勧めていきます》と暗に薬物療法を勧める表現が見受けられます。中枢神経刺激剤はADHDの治療薬ではなく(そもそも保険病名にも掲載されていないのですが)、あくまでも条件を整える工夫のひとつに過ぎません。ライフサイクルを考慮すれば減薬する計画も医師は心得ていなければなりません。最近ではペアレント・トレーニングや教室での効果的な対応策など整ってきており、薬物療法は第一選択ではないと考えています。私は医療との連携を否定するつもりではありません。しかし《医療的対応》が丸投げとならないことを願うばかりです。

院内百科 vol. 3

家族教室委員会

当院では、精神障がい者を身内に抱える家族の方を対象に、家族教室を開催しています。家族教室は、家族の方が病気や治療法などの正しい知識を得て、病気への理解を深めることや家族同士で「体験を語り合い、聞きあうこと」で家族自身の心理的負担を軽減することなどを目的としています。参加されたご家族が少し元気になって、気持ちにほんの少しだけ余裕を持てるようになって頂けるような内容を提供できればと考えています。委員会では、家族教室の開催にむけて

の準備、当日の運営などを行なっています。今年度は、7月13日(金)・8月17日(金)・9月14日(金) 18:00～開催する予定です。興味関心のある方は、地域医療センターまでお気軽にお問い合わせ下さい。



診察室から

青年危機!!

支えられるのを厭がる若者を(本当は支えられる事を求めているかも知れない!)どう支えて社会の仲間になって貰うか。

初診外来に19才の独り息子の事で母親が相談に来られました。仕事に行かず、家族と共に食事する事もなく、すぐ2階の自分の部屋に行ってしまう、母親が心配して声をかけても返事をしない。注意するとすぐ怒り、壁を蹴ったりすることもあるという事でした。

医師:いつ頃から生活が不規則になりましたか。

母親:高校卒業して暫くは会社に勤めたのですが半年でやめてしまい、何が原因か言ってくれません。

医師:何か変な様子、独り言とか独り笑いと、おびえたり、どうかされると言ったり、奇妙な行動はありませんか。

母親:とりたてて変と言うわけでもないのですが、最近「ひきこもり」とか若い人の様々な事件があったりで心配です。

医師:父親と本人の関係はどうか。

母親:父親は仕事が忙しく、又、本人とは話しにくいらしく、勿論本人が精神科へ来る等、



宇野克弘 医師

としても考えられません。

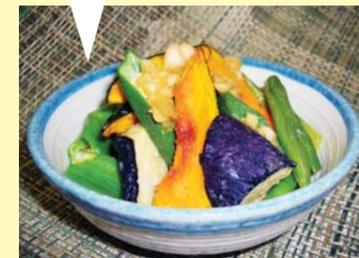
医師:このまま段々本人が狭い自分の中に閉じこもっていく事になるとすれば、本人にとっても、家族の方にとっても、社会にとっても大きな損失です。本人がどうなっていくかを予測する事は大変難しい事ですが一緒に考えて行きたいと思っています。

今後の問題

若者が社会人になって行く時、先ず自分の事は自分でやる、人に迷惑をかけない、出来れば人との関係の中で自分を伸ばして行く事、これらが守られておればあとは本人の自由です。若者の問題は社会全体が引き受けねばなりません。その意味で当院で相談、その他様々な社会資源の連携によって気長に考え行動して行く必要があります。

♡ 心にゆとりのコーナー

夏をのりきる!!



夏野菜のめんつゆマリネ

材料4人分

- 南瓜・・・1/6ヶ(200g)
- なす・・・2ヶ
- オクラ・・・6本
- ししとう・・・6本
- めんつゆ・・・1カップ

作り方

- 1 南瓜は7～8mmの一口大に切り茄子は乱切り、ししとうは1ヶ所切り込みを入れる。
- 2 オクラ、すじを取ったさやいんげんは洗って水気をふき、170℃のあげ油で野菜を順に揚げる。
- 3 バットにつけつゆ程度に薄めためんつゆと、おろし玉ねぎを加え、よくまぜ油をきった野菜を熱いうちにかからめ冷蔵庫で冷してから器にもりつける。

☆ 夏の自然を取り入れましょう

旬の素材はみずみずしいので、食欲をすすめるのに最適です。また、香り野菜(青しそなど)を加えて、味にポイントをつけます。

☆ 酸味を使ってさっぱり料理

レモン汁・酢の利用又は酸味の強いトマトを利用!!

☆ 冷たくして

スープや汁物を冷したり一品冷した料理を加えるのもよいでしょう。

☆ 見た目に涼しく

盛り付けや食品による演出もよいと思います。

ストレスOFF

『ちょっといいシネマ』

作品紹介
小泉 正己

しゃべれどもしゃべれども
2007年 日本 109分
監督:平山秀幸
主演:国分太一、香里奈

古典落語を愛するゆえに弟子入りしたものの、思うように芽が出ない二ツ目の落語家・今昔亭三つ葉(国分太一)が主人公。彼のもとへ「話し方を習いたい」と三人の変り者が集まり、ひょんなことから落語を教えることになります。物語は、落語に終始することなく、下町情緒あふれる東京を舞台に、「想いを伝えることの大切さ」をテーマにした、さわやかで、心優しいお話となっています。浅草寺のほおずき市、江戸川の河川敷、隅田川の水上バスなど東京・下町の映像が素晴らしく、映画初めての単独主演ながら、落語家を見事に演じきった国分くん、無愛想を絵に描いたような美人を演じる香里奈さんら演技人も素晴らしい!観終わったあと、幸福感がじわーっと胸にしみ込むような作品です。



スマイリー・バトンリレー 東1F男女混合急性期治療病棟

東1病棟のスタッフ

急

急性期症状を呈した個々の患者さまのニーズに沿ったケアを行い、最長3ヶ月間の入院期間を目指しリハビリパスを活用して、早期社会復帰をしていただけるよう努めています。退院前・退院後の病棟訪問看護から、訪問看護ステーションへ引継ぎ、他部門との連携で自立援助を行なっています。毎月のレクリエーションや日替わりで料理教室・野菜作り・花壇作り等積極的に実施し、患者さまの興味心を引出し、コミュニケーションの大切さ・心と心のふれあいを重要視しています。閉鎖病棟は26床〔(個室2)(2人部屋2)(4人部屋5)〕開放病棟は29床〔(個室5)(4人部屋6)〕の55床とPICU4・隔離室4です。スタッフは師長1・主任2・看護師14・准看護師9・看護補助7・PSW1の計34名で、閉鎖・開放の2チームに分かれ夜間は3名体制です。尚、病棟担当医師1・薬剤師1・作業療法士1・栄養士1も配置しています。

vol
11

いがおん工房

今日の西浦さ～ん!!!

今号は夏バージョンの院長です。かわいく塗って持って来てね!!

ニックネーム： _____

本誌へのメッセージ： _____



きりとり

ほっとニュース

● 5月17日(木) 第2回院内運動会を行いました。当日はあいにくのお天気で体育館にて行いましたが予想以上の参加者・見学者で各種目共に予定以上のレースを行うことが出来ました。職員によるレースも多く行われ各病棟の応援合戦など各病棟・部署のスタッフのまとまりも見られました。職員による仮装行列やバンド演奏、よさこいも盛り上がり模擬店も盛況で参加者から賞賛の声が上がっていました。職員や患者さまの普段にはない明るい表情やはりきり振りに楽しい雰囲気やケガをされた方もなく無事に運動会を終えることができました。



●外来診療担当医表 (鈴鹿厚生病院)

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	14時～ 山本
	再診	小野	西浦		高山	
	再診	西村				

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
 - 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みみます。

編集

後記

今号は「EAST&WEST-BANDの紹介」や「運動会の模様」などをお伝えしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたくと考えています。本誌へのご感想や、ご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401(代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp